



園だより

7月号

令和3年6月28日
駿河台大学第一幼稚園
園長 田所 恒子

“一生ものの力”を育てるために

早いもので一学期も残すところ1ヶ月となりました。

先生や友達と遊びや生活を楽しむ中で、子どもたちは、年齢や発達に応じて、挨拶や食事、排泄、着脱、手洗いなどの基本的な生活習慣をはじめ、幼稚園の様々な生活の仕方を身につけてきました。自分でできることを増やし、自信をつけながら幼稚園生活を楽しむ姿が見られます。幼稚園教育は、生涯を通じて健康で安全な生活を営む基盤となる“一生ものの力”を育てているのだと改めて強く感じます。

先月の園だよりの写真で、年少児が担任や友達と一緒に上靴の履き方を練習する姿をご紹介しました。毎日の積み重ねの中で、今では正しく靴を履く子どもが増えてきました。マジックテープを「ベリベリ」とはがして靴に足を入れ、かかとを「トントン」、しっかり足が安定するようにマジックテープを「ギュー」と引っ張り、「ピタ」と留めます。子ども自身、足が安定して動きやすく心地よいことを実感しているのでしょうか。きちんと履けたことが嬉しそうで自慢げです。基本的な歩行動作が身につく幼児期に、足に合った靴を選ぶだけでなく、正しく靴を履くことはとても重要だと「足育」では言われています。正しい靴の履き方を身につけることは人生100年を健康で心豊かに生きるための“一生ものの力”となります。

また、先日の歯科検診で、歯科園医 古仙芳樹先生から「虫歯は少ないが、顎が未発達な子どもが多い。」という驚く結果をお聞きしました。保護者の皆様も虫歯の予防をされても、顎の発達への関心は少ないのではないのでしょうか。顎が小さいと、歯並びや噛み合わせが悪くなり、将来的に自分の歯で噛んで食べ、健康な身体や生活を維持していくことができなくなります。「私たちが美味しいと感じる食べ物は、油分や糖分を多く含む軟らかな物が多く、しっかり噛む必要がないため顎が発達しない。足をしっかり床につけて正しい姿勢で座り、日本古来の主食であるお米を中心にした食べ物をよく噛んで食べることが大切。」と教えてくださいました。本園ではかねてより古仙先生のご指導を受け、しっかり噛んでお米のおいしさを味わう「おにぎりの日」を設けています。「小魚の日」と共に、改めてその大切さを認識しました。「小魚の日」には、一人一袋の小魚を食べますが、堅い小魚は食べる経験が少なく、苦手な子どもが見られます。苦手な子どもには、食べる量を一匹から少しずつ増やし「よく噛んで食べる」体験を積んでいきます。また、年少児に足が床につかない子どもがいたので、今年度より、机と椅子を床に足がしっかりつくサイズに替えました。幼稚園では、このように様々な工夫をして教育にあたっています。しかし、ご家庭のご理解、ご協力がなくては、子どもたちの“一生ものの力”を育てることはできません。幼稚園とご家庭で、一緒に子どもたちの“一生ものの力”を育ててまいりましょう。

7月には、個人面談が行われます。保護者の皆様と担任が共に子どもの成長を喜び合い、これから100年を生きる子どもたちの健やかな育ちに向けて、内容の濃い個人面談ができるよう願っています。



登園したら水道横に置かれたテーブルに荷物を置いて手を洗います。年少児にも身の回りの始末を自分で行おうとする気持ちが育ってきました。



靴箱に靴の履き方の絵表示を貼り、子どもたちが履き方に気づくようにしています。



年少児の身体に合った椅子。足の裏を床にしっかりつけて座ることができます。



袋に入った小魚。今年度からアレルギーに配慮し、ゴマのついていない小魚となりました。